



地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No. 27 (2022年8月)

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)

089-947-1165 (後方連携)

FAX 089-987-6271

秋暑の候、ご皆様におかれましてはCOVID-19第7波の対応でお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。さて、この度 地域連携室便り No. 27 8月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。

この機会にぜひメール登録をよろしくお願いいたします。

今回の内容

- ① レシピエント移植コーディネーターの役割について 和泉美智子
- ② 脊椎脊髄センター長紹介 岩田真治
- ③ 産婦人科紹介 阿部恵美子
- ④ 第116回医療連携懇話会「多職種で診る、難敵“胆道・膵癌”へのアプローチ」を終えて . . 原田雅光
- ⑤ 第115回医療連携懇話会を終えて (後半) 二宮朋之
- ⑥ ソウシンコラム 玉木みずね
- ⑦ 地域医療連携室からのお知らせ～メールのご登録のお願い～

レシピエント移植コーディネーターの役割について 腎移植コーディネーター 和泉 美智子

レシピエント移植コーディネーター(RTC)は、2011年に学会認定となった資格です。業務内容は、移植の全過程における患者・家族への意思決定支援、チーム医療の調整、移植後の生活指導などを行っています。私は腎移植のRTCなので、病棟・外来で、生体移植ドナー・レシピエント、脳死心停止下移植のレシピエントの術前術後のサポートを行っています。腎移植は、生体腎においてはドナーに対する倫理的配慮が必要であること、レシピエントには、確実な内服など自己管理が長期生着には欠かせないため、多方面からの介入を必要とします。そのため、当院では、移植医とRTC・看護師だけではなく、腎臓内科医・栄養士・薬剤師・心理士などチームで腎移植レシピエント・ドナーの支援を行っています。

腎移植に関して、ご相談ごとなどございましたら、泌尿器科(腎移植外来)にご紹介ください。





② 脊椎脊髄センター長紹介

脊椎脊髄センター長 岩田 真治

2022年6月1日より、脊椎脊髄センターを開設し、センター長を拝命いたしました、脳神経外科の岩田真治と申します。松山市出身（当院で生まれたらしい）で、松山東高校から愛媛大学医学部に進み、1990年に卒業しました。その後、愛媛大学脳神経外科に入局し、関連病院で研修を行いました。

2006年には獨協医科大学脳神経外科に国内留学し、脊椎脊髄手術のトレーニングを行いました。2008年に日本脊髄外科学会認定医を取得しました。2009年には愛媛大学附属病院脊椎センターの立ち上げに関わりました。2015年4月から当院で勤務しております。2019年には脊椎脊髄外科専門医を取得しました。現在は脊椎脊髄手術、神経内視鏡手術、小児脳神経手術を主に行っております。

さて、脊椎脊髄疾患は、椎間板ヘルニアや外傷、脊髄腫瘍、奇形など多岐にわたっていますが、疾患により整形外科で治療を行ったり、脳神経外科で治療を行ったりしています。一方、椎間板ヘルニア・後縦靱帯骨化症・腰部脊柱管狭窄症などの脊椎変性疾患は両科がそれぞれの治療法で手術を行っているのが現状です。整形外科には日本脊椎脊髄病学会、脳神経外科には日本脊髄外科学会があり、それぞれ別個の専門医制度が存在しています。最近、両学会が合同で新たな専門医制度を立ち上げ、2017年から脊椎脊髄外科専門医制度がスタートしました。その流れもあり、昨今、整形外科と脳神経外科がコラボレーションした脊椎脊髄センターの開設が相次いでいます。前述の愛媛大学附属病院を始め、2019年には順天堂大学、2020年には東京大学でも脊椎脊髄センターが開設されました。当院でも数年前から構想はあったのですが、コロナ禍により準備が遅れており、ようやく2022年6月1日に脊椎脊髄センターを開設することができました。当面は私が毎週火曜日午後に整形外科外来にて外来診療を行います。整形外科は従来通り月曜日から金曜日まで脊椎脊髄外来診療を行います。今後は合同カンファレンス、合同手術などを行い、将来的には入院病棟の統一なども視野に入れています。

下記に該当する症例がありましたら、ご紹介の程よろしくお願い申し上げます。整形外科医と脳神経外科医が協力して、患者さんにベストの治療が提供できるよう努力する所存です。

<主な症状>

腰痛、手足のしびれ・麻痺、歩行障害、上下肢痛、頸部痛、肩こりなど

<対象疾患>

1. 脊椎変性疾患
- 椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、後縦靱帯骨化症、腰椎分離すべり症など
2. 脊椎・脊髄腫瘍
- 硬膜外腫瘍（転移性腫瘍など）、硬膜内髄外腫瘍（髄膜腫、神経鞘腫など）、脊髄髄内腫瘍（上衣腫、神経膠腫など）
3. 脊椎・脊髄外傷
- 脊椎骨折（圧迫骨折含む）、脊髄損傷など
4. 脊髄血管障害
- 脊髄梗塞、脊髄出血、脊髄血管奇形など
5. 脊椎・脊髄の感染性疾患
- 化膿性脊椎炎、椎間板炎、脊髄炎、髄膜炎など
6. 脊椎・脊髄の奇形
- 先天性側弯、キアリ奇形、脊髄空洞症、二分脊椎、脊髄脂肪腫など

<診療予定表>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	飯本誠治 松本和寛	山岡慎大朗	松本和寛	飯本誠治	山岡慎大朗
午後		山岡慎大朗 岩田真治			

<スタッフ紹介>

岩田 真治（いわた しんじ）

1990年 愛媛大学医学部卒

- ・日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医
- ・日本脊髄外科学会 脊椎脊髄外科専門医

飯本 誠治（いいもと せいじ）

1999年 愛媛大学医学部卒

- ・日本整形外科学会 整形外科専門医
- ・日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科専門医
- ・日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

山岡 慎大朗（やまおか しんたろう）

2005年 日本大学医学部卒

- ・日本整形外科学会 整形外科専門医
- ・日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科専門医
- ・日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

松本 和寛（まつもと かずひろ）

2008年 大阪医科大学卒

- ・日本整形外科学会 整形外科専門医
- ・日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医



左から松本、岩田、飯本、山岡

③ 産婦人科紹介

産婦人科 主任部長 阿部 恵美子

産婦人科は県内唯一の総合周産期母子医療センターの産科部門として、24時間、365日緊急母体搬送に対応しています。愛媛県の基幹周産期医療施設として、すべての周産期医療機関と連携し、合併症妊娠、多胎妊娠、切迫流産、胎盤位置異常、胎児異常などのハイリスク妊娠・分娩、当院の高度救命救急センターと連携した母体救命を要する疾患に対応し、「愛媛県周産期医療の最後の砦」としての役割を果たしています。夜間休日の超緊急帝王切開術においても、新生児内科・麻酔科などとの緊密な連携のもと、15分以内に児を娩出できる体制を整えています。

日本全体における出生数は減少の一途をたどっており、2021年には約84万人でしたが、愛媛県においても減少は同様で、2018年は9,400人であった出生数が、2021年は8,068人と3年間で1,300人以上も減少しています。更に松山市においても2018年は4,035人であったのが2021年には3,482人に減少しています。この数年は新型コロナの影響も大きかったものと考えられます。当院でも分娩数は減少傾向で2018年には1,139人（母体数）でしたが2020年は894人まで減少したものの、2021年は900人とやや増加していました。しかし緊急母体搬送数は減少傾向がなく、年間200件以上の母体搬送を受けています。2019年に225件と最低件数でしたが、その後は上昇し2021年は260件でした。不妊治療による妊娠、高齢妊娠の増加や多胎妊娠の影響が影響していると考えられます。

当院は新型コロナ陽性妊婦の診察・分娩も対応していますが、当院で入院管理した新型コロナ陽性妊婦は2022年6月までで7例のみで、分娩に至ったのは1例でした（経膈分娩）。幸い、この原稿を書いている時点では軽症もしくは無症状の妊婦のみで、重篤な状況に至った症例はありませんが、第7波に突入し陽性妊婦や濃厚接触者と認定された妊婦も急増しており、予断を許さない状況です。

周産期部門において、2022年7月より日本医学会出生前検査認証制度に基づく非侵襲性出生前遺伝学的検査（NIPT）の基幹施設として当院が認証されました。以前より愛媛大学で取り扱われていましたが、当院は愛媛県で2件目の認証施設となります。21トリソミー、18トリソミー、13トリソミーが対象になります。高齢妊娠などNIPTの受検が選択肢となる妊婦さんのニーズにこたえられるよう適切な遺伝カウンセリングを行いながら行っていきたいと考えています。

婦人科部門においては、良性腫瘍を中心とし、その多くを腹腔鏡手術や子宮鏡下手術で行っています。2021年は腹腔鏡下手術191件、子宮鏡下手術28件、子宮全摘術（腹式・膈式あわせて）47件、開腹付属器手術26件、子宮脱手術12件、子宮頸部切除術14件でした。腹腔鏡下手術の場合、入院期間は5日間で入院期間の短縮をはかり、患者さんのニーズにこたえられるよう診療を行っています。

当科は後進の指導にも力を入れており、日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導医施設、日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度基幹研修施設（母体・胎児）、日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設、日本女性医学学会研修認定施設に指定されています。経験を積み専門医を取得した医師たちが地域の基幹病院へ移り、産婦人科地域医療に携わることで地域医療に貢献できることと期待しています。

愛媛県の周産期医療の最後の砦として、産婦人科診療の基盤の1つとして、地域の医療者の皆様や患者さんのニーズにこたえられるよう今後も診療にあたりたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

WHO/ユニセフによる赤ちゃんに
やさしい病院(BFH)認定書
パブロ・ピカソ「母と子」



パブロピカソ「母と子」



④第116回医療連携懇話会

「多職種で診る、難敵“胆道・膵癌”へのアプローチ」を終えて

副院長・消化器（肝胆膵）外科 原田 雅光

今回は、日本人で現在さらに増加を続け、しかも難敵である胆道癌・膵臓癌に対する当院の“多職種による取り組み”をテーマとして企画させていただきました。

第1題は、消化器内科部長の黒田太良先生に、『膵癌治療に対する内科的アプローチ ～当院の試み～』をお願いしました。部位別がん死亡数で男性4位、女性3位（男女計4位）に位置する膵臓癌の①早期発見、②術前化学療法のお話でした。従来から早期発見が困難とされる本疾患に対し、腹部エコーやダイナミックCT、MRI/MRCP、連続膵液細胞診など、実画像とともに経験談も踏まえ詳細かつコンパクトにまとめていただきました。会場とWeb参加から質問をいただき、双方向の議論ができました。後半には、膵癌の術前化学療法（抗がん剤）NACの新しい適応や最新の有効データを供覧していただき、まさにUp to Date な内容でした。私自身も最近の患者さんから、その有効性を実感しております。

第2題は、消化器外科部長の花岡潤先生をお願いしました。タイトルは『難敵“胆道癌・膵癌”に対する外科治療の最前線！』でした。胆道癌、膵癌それぞれの治療アルゴリズムをコンパクトに説明されたうえで、①腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術、②同膵体尾部切除術を、実際の手術動画で供覧していただきました。出血の少ない、かつ必要十分なリンパ節郭清や再建の工夫を、各ステップ毎に分かりやすく説明していただきました。会場からは、術後合併症としての「膵液漏」に関する質問があり、それを最小限に抑えるための当科の工夫（膵切除デバイスの特性と選択、膵腸吻合・密着吻合、など）を説明されました。元副院長の河崎先生が日頃特に心掛けていた、あくまでも“安全第一”でかつ“根治性”を追求し、肝胆膵高度技能指導医（専門医）であれば必須の高難度手技を正統に継承し、しかも余分な合併症を極力防止する姿勢を強調されました。また、最近の低侵襲手術であるダビンチ（ロボット）手技にも言及し、鏡視下とロボットのそれぞれのメリット（強味）を理解したうえで、今後前向きに取り組む姿勢を強調されました。私としては、学会（中央施設）や低侵襲手術の保険適応診療収載の流れも十分視野に入れ、患者さんのニーズにも安全・充分に応えられるよう、日々グループ内でも切磋琢磨し、常に、安全性（開腹移行基準）、根治性、低侵襲性を総合的に判断した“肝胆膵グループ診療”を求め続ける覚悟です。彼（花岡先生）と私は約20歳の開きがあります。既に県立新居浜病院での勤務も経験しております。現、大谷主任部長（私とは7歳差）らとともに、益々研鑽していただけるものと大いに期待しているところです（地方中核病院のハイボリュームセンターとして、中央・東京に負けないよう）。



次に、第3題は『がん薬物療法における薬剤師の関わり』と題して、薬剤部の西畑友尋係長にお願いしました。①がん患者への関わり、②抗がん薬調製について、③レジメン審査について、限られた持ち時間の中で、コンパクトに分かりやすく説明していただきました。当院規模の病院であればより多くの薬剤師さんが採用されてしかるべき状況下、近年、徐々に解消はされつつあるも標準値（部署人数）にはまだまだ届いておりません。そんな中、消化器・肝胆膵領域だけでも多くのレジメンがあり、さらに全科のレジメン登録や現場管理、患者投与調剤、副作用チェック、などなど、専門的サポートは欠かせません。各診療科や各部署、入院サポートセンター業務や、一般がん関連診療科外来・病棟フォロー（服薬指導）など業務は多岐多彩です。医療安全上、ミスが許されない現場の特性もあり、まさに、医師・看護師らを含めた多職種連携が、結果的に患者さんへ高品質サービスを提供することに繋がることを実感いたしました。

4題目は、栄養部の三ツ井照代担当係長から、『周術期栄養管理のポイント』のお話をしていただきました。①管理栄養士の役割、②膵癌診療ガイドラインに基づいた入院中の栄養管理、③術後食・脂肪制限食、の3課題についてでした。術前の入院サポートセンターから、クリニカルパスに準じた患者への介入の流れを、実際のメニューを提示しながら説明していただきました。入院患者にとって、治療結果に次いで楽しみであろう「食事・栄養」について、管理栄養士の視点から詳しくコンパクトにまとめていただきました。

最後に、座長の私から、『Take-home Message』と題して、スライド4枚提示させていただきました。1) 先日凶弾に倒れた安倍元首相が潰瘍性大腸炎を患われていたことから転じて、石原慎太郎氏、千代の富士関、柔道家の斎藤仁氏、ラグーマンだった平尾誠二氏、瀬戸内寂聴氏やAmericaのスティーブ・ジョブズ氏など、多くの著名人も今回テーマの疾患で亡くなられています。2) 私事になり恐縮ですが、2001年春に、徳島大学から当院に赴任し、この20年間で肝胆膵悪性疾患の手術件数は右肩上がりが増加しています。これも偏に医療連携の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。一方で、この間は「人財育成」にも注力し、①中堅・若手医師の資格取得条件（論文作成）サポートや、②初期研修医の消化器外科への勧誘、③女性医を含め各種認定医・専門医・指導医資格取得、④内視鏡技術認定、肝胆膵高度技能指導医・専門医、ロボット支援手術プロクター認定などの取得に努めました。さらに、最近Academic Surgeonへのキャリアアップのため、徳島大学（消化器・移植外科）と提携し「社会人大学院」制度を活用した学位取得も軌道に乗ってきました。来月には、当科徳田和徳先生（生え抜き、卒後12年目）が学位審査に臨みます。愛媛大学卒の沖川昌平先生（9年目；研究済）、脇悠平先生（12年目；研究中）も続いております。3) 最近(2020年度)のDPCランキングでは、上部、下部消化管グループとともに、各種項目で全国上位を占めるようになってきました。手前味噌になりますが、肝癌・膵癌・胆道癌手術（在院日数項目）では、全大学病院を含めTop 3を維持するようにまでなりました。これ等に奢らず、日々切磋琢磨に努めたいと存じます。4) このように、当院消化器病センターでは、内科・外科の垣根を越えて、“All for the Patients!!”の精神で、日々明るく、楽しく、有意義に研鑽・連携しております。また、「県民の安心の拠り所である病院（最後の砦）」を病院理念として、今後もチーム（多職種）で、High Qualityな医療に努めることをお約束します。

⑤第115回医療連携懇話会を終えて（後半）

地域医療連携室長 二宮 朋之

「県立中央病院をまるごと ご紹介します」をテーマに第115回医療連携懇話会が6月8日に開催されました。会場参加70名、web参加35名で計105名の方にご視聴いただきました。

昨年はCOVID-19の診療のため、6か月半にわたり手術、入院ともに3割減を主体とした診療抑制を行い、地域の先生方に非常にご迷惑をおかけしました。今年度はできるだけ診療抑制せずに乗り切っていきたいと思っておりましたが、COVID-19第7波のため、先日、やむを得ず診療抑制を再開せざるを得ない状況になりました。先生方のご紹介に対し、できるだけ対応していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回は中央病院29診療科のうち、後半15診療科のスライドを、ご紹介いたします。今後のご紹介の参考になればと考えております。

これからも引き続き当院をよろしくお願いいたします。

29診療科内訳

8月号	7月号
感染症内科	麻酔科
呼吸器外科	産婦人科
小児科	新生児内科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	小児外科
心臓血管外科	腎臓内科
整形外科	泌尿器科
血液内科	糖尿病・内分泌内科
脳神経内科	消化器内科
形成外科・顎顔面外科	消化器外科
皮膚科	呼吸器内科
眼科	乳腺・内分泌外科
総合診療科	放射線科
漢方内科	脳神経外科
救急科	循環器内科
歯科	

★7月号へリンクはこちら➡ [（地域連携室便り7月号PDF）](#)



県立中央病院 29診療科のご紹介（後半）

感染症内科

感染症内科



- 感染症内科医師4名
(スタッフ 3名、専攻医 1名)
- 本間、鶴田、上田、西野
- 短期間の外部研修医師も募集中



呼吸器外科

呼吸器外科



古川



畑地

2人で診療しています。



ロボット支援胸腔鏡下右上葉切除
(許可を得て再生しています)

感染症の入院患者さんの治療をしています



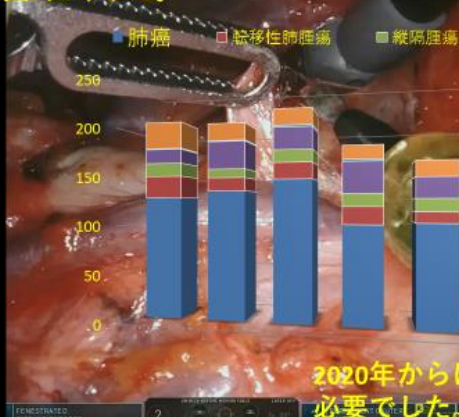
- 血液培養陽性患者の併診
- 不明熱や感染症治療についてコンサルト
- COVID-19患者の診療
- 多職種連携のカンファレンス
- 研修医へのレクチャーも毎日しています



朝のカンファレンス ～微生物検査室～



2019年まで肺癌手術数 四国2位でした。



2020年からは診療制限が必要でした。

2021年4月～12月の実績

- 血液培養陽性患者 273人
- 感染症コンサルト 457人
- COVID-19患者 277人



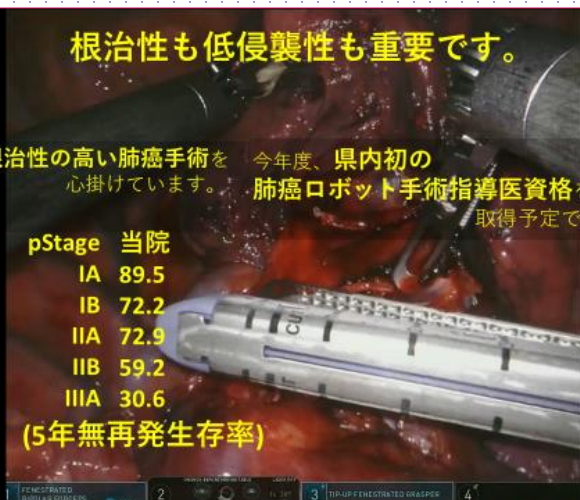
根治性も低侵襲性も重要です。

根治性の高い肺癌手術を
心掛けています。

今年度、県内初の
肺癌ロボット手術指導医資格を
取得予定です。

pStage	当院
IA	89.5
IB	72.2
IIA	72.9
IIB	59.2
IIIA	30.6

(5年無再発生存率)



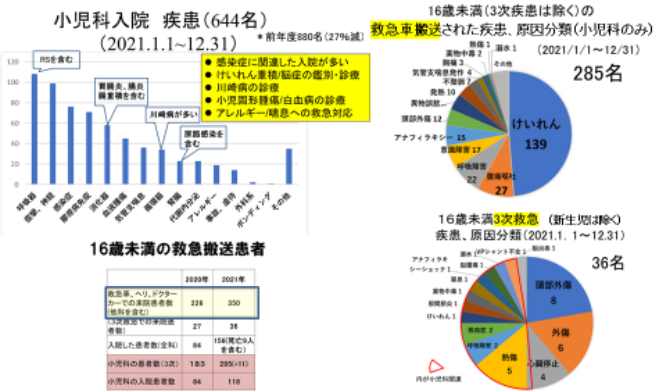


県立中央病院 29診療科のご紹介（後半）



小児科

小児科診療実績



耳鼻咽喉科・頭頸部外科

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

当科は地域の基幹病院として、そして松山市内唯一の三次救急医療を担う病院として、患者さんや近隣の医療機関の信頼を得ることができるような診療を目指して努力しています。年間手術件数は約600件です。また、がん診療連携拠点病院として、頭頸部がん診療にも重点を置いており、手術治療、化学療法、放射線治療を適宜組み合わせ、治療の充実を目指しています。

当科の主要手術

耳科手術

鼓室形成術、鼓膜形成術、顔面神経減荷術、中耳手術など

鼻科手術

内視鏡下鼻副鼻腔手術(ナビゲーション手術を含む)、鼻中隔矯正術、鼻副鼻腔腫瘍摘出術など

口腔、咽喉頭手術

口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、嚥石摘出術など

喉頭・気管手術

顕微鏡下喉頭微細手術、緊急気管切開手術など

頭部疾患(悪性以外)

頭部腫瘍切開摘出術、耳下腺・甲状腺良性腫瘍手術など

悪性腫瘍手術

鼻副鼻腔、舌、口腔、咽・喉、咽頭(上、中、下)、喉頭悪性腫瘍の手術、頭部腫瘍手術など

小児一般診療、小児救急は、もちろん、
小児血液疾患、小児神経疾患、
小児リウマチ性疾患、小児アレルギー、
小児循環器疾患の専門医がスタッフです!!



初期治療から集中治療まで

 本多 伸光 主任部長 1992年 愛媛大学医学部卒 ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会耳鼻咽喉科専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医、代議員、被験者相談医 ・日本小児科学会小児科手術指導医 ・日本臨床神経学会脳神経腫瘍相談医 ・厚生労働省臨床研修指導医 臨床耳科、鼻副鼻腔、頭頸部外科	 高木 大樹 部長 2004年 愛媛大学医学部卒 ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会耳鼻咽喉科専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医、被験者相談医 聴覚・被験者、鼻副鼻腔	 小川 日出夫 部長 2007年 愛媛大学医学部卒 ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会耳鼻咽喉科専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医、被験者相談医 臨床耳科
 勢井 洋史 医員 2008年 愛媛大学医学部卒 ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会耳鼻咽喉科専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医 ・日本臨床神経学会脳神経腫瘍相談医 ・日本臨床救急学会認定臨床救急医	 木村 拓也 医員 2014年 愛媛大学医学部卒 ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会耳鼻咽喉科専門医 ・厚生労働省臨床研修指導医	 高木 亮太 専攻医 2018年 信州大学医学部卒

小児科スタッフ

小児内科疾患全般ですが、各人専門の特異分野をもってます

血液腫瘍

石田 也寸志
河上 早苗
永井 功造
循環器
山本 英一
森谷 友造

神経

河邊 美香
自己炎症、免疫
中野 直子
アレルギー
吉田安友子
一般
吉松 佳祐





心臓血管外科

診療科紹介 心臓血管外科

【診療方針】

成人心臓および大血管（胸部から抹消血管）すべての外科的疾患に対応する

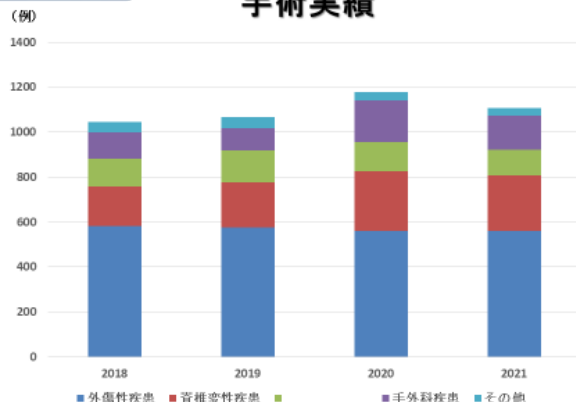
【特徴】

- ・緊急対応は24時間、365日
- ・開胸・開腹での治療のみならず、低侵襲治療にも注力
- ・ハートチームを形成し他職種とともに治療を行う
＜TA-TAVI, MitraClip etc.＞

整形外科

整形外科

手術実績



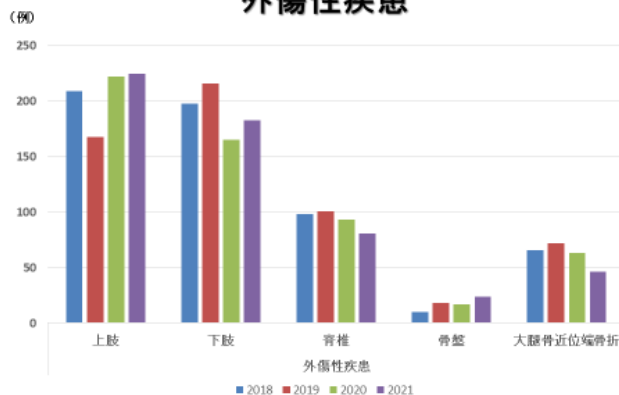
心臓血管外科で扱う疾患

- ・虚血性心疾患
- ・心臓弁膜症
- ・その他の心臓疾患（腫瘍、血栓等）
- ・大動脈疾患（胸部、腹部）
- ・末梢血管（動脈、静脈）



2021年手術総数 358例

外傷性疾患



スタッフ紹介



石戸谷 浩



米沢 数馬



高橋 研



原田 崇史

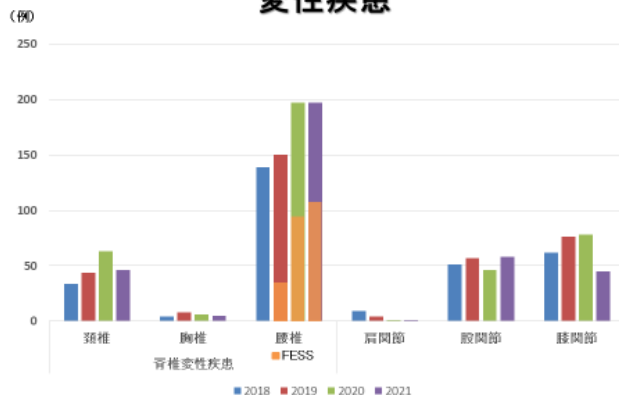


山形 颯子



稲荷 真愛

変性疾患





県立中央病院 29診療科のご紹介（後半）

血液内科

より多くの患者さんを診る
愛媛県立中央病院血液内科



愛媛がん診療連携協議会
がん登録でみる愛媛県のがん診療 2021より

脳神経内科

診療方針

日本神経学会認定神経内科専門医数（2022年3月）

愛媛県：37名（四国4県：135名） 広島県：137名

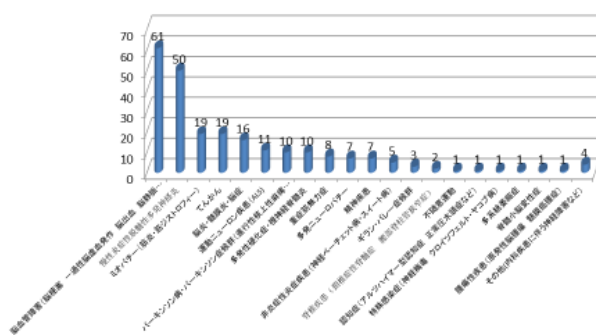
四国は脳神経内科の分野では僻地

- ・当科の診療方針として、脳、脊髄、末梢神経、筋肉のいずれの分野にも偏ることなく幅広く診療する。
- ・特に治療に重点をおいた「**治せる脳神経内科**」を掲げて診療にあたっている。

2020年度からの造血幹細胞移植推進拠点病院の体制について



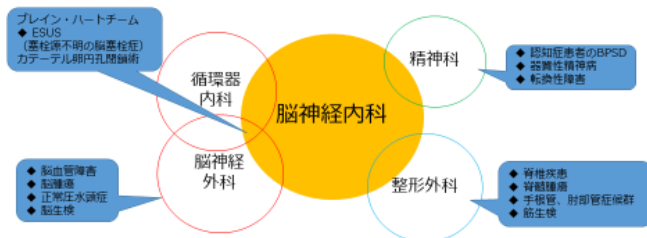
入院診療実績(2021年)



血液内科スタッフ



関連する診療科とのコラボレーション





県立中央病院 29診療科のご紹介（後半）

形成外科・顎顔面外科

形成外科

先天性、後天性の形態異常や機能異常を
形態的、機能的に修復、再建する外科

- ・ 新鮮外傷、新鮮熱傷
- ・ 顔面骨折および顔面軟部組織損傷
- ・ 唇裂・口蓋裂
- ・ 手、足の先天異常、外傷
- ・ その他の先天異常
- ・ 母斑、血管腫、良性腫瘍
- ・ 悪性腫瘍およびそれに関連する再建
- ・ 瘻瘻、瘻瘻拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド
- ・ 褥瘡、難治性潰瘍
- ・ 美容外科
- ・ その他

皮膚科

皮膚科

- 皮膚に関連するすべての疾患を扱います。
- 重症・難治例、全身症状を伴う例、診断困難例、手術的治療を要する症例などを中心に紹介いただいています。
- 他科領域と重複する疾患も多く、必要症例は他科と連携を取り診療を行っています。
- 下腿潰瘍、糖尿病性足潰瘍、壊疽などの創傷に対して多数の治療経験があります。
- 広範囲・重症熱傷（3次救急）
⇒救急科・形成外科と合同でチームを作り治療に当たっています。

疾患別入院患者数

疾患名	2018	2019	2020	2021
新鮮熱傷	8	11	8	6
顔面骨折	73	45	43	27
顔面軟部組織損傷	6	3	2	3
唇裂口蓋裂	32	25	36	24
手足の先天異常	13	12	10	6
手足の外傷	53	49	35	18
その他の先天性異常	18	53	47	12
母斑・血管腫・皮膚良性腫瘍	110	111	105	62
悪性腫瘍およびその再建	20	18	23	17
瘻瘻・瘻瘻拘縮	14	18	19	6
褥瘡・難治性潰瘍	37	19	21	21
その他	19	19	22	31
合計	403	383	371	233

手術数（手術室）

区分	2018	2019	2020	2021
外傷	186	181	125	78
先天異常	114	95	109	86
腫瘍	328	304	277	176
瘻瘻・瘻瘻拘縮・ケロイド	39	36	28	20
難治性潰瘍	34	44	25	36
炎症・変性疾患	23	16	14	5
美容	0	0	0	0
その他	42	27	13	15
レーザー	167	170	141	186
合計	902	873	732	602

皮膚科

■ 外来診療

- ・ 乾癬生物学的製剤使用承認施設です。
生物学的製剤
乾癬 31例、アトピー性皮膚炎 41例、慢性蕁麻疹 9例
JAK阻害剤（新規アトピー治療薬）2例
- ・ 紫外線治療
施行件数 894回/年



■ 入院診療

- 細菌感染症（蜂巣炎、潰瘍二次感染、膿瘍など）19例
- 重症円形脱毛症に対するステロイドパルス 18例
- 難治性潰瘍 10例、手術入院 9例、薬疹・中毒疹 9例
- 広範囲熱傷 8例、水疱症 8例、その他 16例（2021年度実績）



皮膚科スタッフ





県立中央病院 29診療科のご紹介（後半）

眼科

眼科担当表（2022/4/1～）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
外来	山口 河内	大熊 城戸 奥嶋※	河内 森	山口 城戸 吉岡	大熊 森
未熟児	○	○		○	○
手術	AM/PM		AM/PM	AM	AM/PM

※第4火曜日のみ

火曜日・月1回
県立南宇和病院へ
1人派遣

【専門外来】

網膜硝子体：大熊真一（火/金）、吉岡恵理子（木AM）
緑内障：城戸龍樹（火/木）
白内障：全員対応
角結膜・ドライアイ：山口昌彦（月/木）
ロービジョン：山口昌彦（第2/4木PM予約制）
斜視弱視：奥嶋奈美（第4火PM予約制）
未熟児網膜症：全員対応

総合診療科

こんな仕事をしています

- 外来診療
（地域連携、初診患者、予約外患者、院内紹介）
- 入院診療
- 救急患者の初期診療・入院診療
- へき地医療支援（へき地診療所の代診支援）
- 教育（医学生、臨床研修医・専攻医の指導）
- 禁煙外来

【白内障手術】

- ・疾患：白内障
- ・入院日数：2泊3日（片眼）→2週間後に反対眼
- ・麻酔：点眼
- ・所要時間：10～40分（難易度による）

【緑内障手術】

- ・疾患：緑内障
- ・入院日数：3泊4日～1-2週間（片眼）
- ・麻酔：デノン嚢下または球後麻酔
- ・所要時間：30～90分（難易度による）

【網膜硝子体手術】

- ・疾患：糖尿病網膜症、黄斑前膜、黄斑円孔、黄斑浮腫、外傷など
- ・入院日数
気体を入れない場合：3-4泊4-5日
気体を入れた場合：1-3週間（重症度による）
- ・麻酔：球後注射
- ・所要時間：40～180分（重症度による）

手術(処置)名	2020年	2021年
表在・深在性手術	5	2
網膜下血手術	1	1
その他網膜硝子体手術	29	27
経瞳孔手術	0	1
緑内障手術(合計)	20	47
虹彩膜剥離・瞳孔形成術	2	6
前房虹彩膜剥離術	3	4
網膜剥離手術	7	4
硝子体吸引手術(合計)	195	133
後部硝子体剥離術	10	9
硝子体吸引・剥離術	25	18
硝子体吸引・剥離術	11	10
硝子体吸引手術	1	0
硝子体吸引	1	1
角膜・結膜剥離術、結膜縫合術	0	5
角膜移植術	2	0
その他角膜手術	8	10
涙管プラグ挿入術、涙点閉鎖術	5	12
結膜剥離術	3	9
眼内圧測定術	0	3
手術数合計(延べ)	905	754

後部硝子体剥離術	50	35
レーザー虹彩膜剥離術	6	2
光凝固療法(POD)	12	5
網膜光凝固術	62	23
硝子体注注射	804	709

コロナ禍の影響で2020年、2021年は減少
（因みに2019年は総手術件数は1364件）

こんな患者さんを対象としています

- 基本的にはいかなる健康問題にも対応します！
- 未診断の患者さん（腹痛、胸痛、不明熱など）
- 複合問題を抱えた患者さん（複数疾患、多臓器疾患、老年症候群など）
- こころの問題を抱え、身体症状を有する患者さん
- 予防医学的アプローチを必要とする患者さん

今後とも、県中眼科を
どうぞよろしくお願いいたします！



山口

大熊

吉岡

城戸

河内

森

奥嶋

角膜
ドライアイ

網膜硝子体

緑内障

斜視
弱視

白内障

2021年診療実績

入院患者	123人
呼吸器疾患	13
神経疾患	10
消化器疾患	11
腎・泌尿器疾患	16
アレルギー・膠原病	10
感染症	18
循環器疾患	4
糖尿病内分泌代謝疾患	5
血液疾患	3
整形外科・皮膚科	14
耳鼻咽喉科・精神科疾患	
その他	19

地域医療連携

587人の患者さんを
ご紹介いただきました。

どうもありがとう
ございました



県立中央病院 29診療科のご紹介（後半）

漢方内科

東洋医学/漢方内科

当院の漢方内科では本物の生薬を調合した煎じ薬も処方できます(保険適応)。

エキス製剤(顆粒)では効果を感じにくい症例にも効果を上げています。



救急科

救命救急センター 救急科

- 救急科医師12名（専門医7名、専攻医1名）
- 救命救急センター 初期診療（三次初療室）
- 重症 入院患者診療（救命ICU・救命HCU）
- 病院前救急
愛媛県ドクターヘリ基地病院
ドクターカー
医師同乗救急（松山消防ワークステーション）
- 災害医療（中央病院：基幹災害拠点病院）

愛媛県立中央病院高度救命救急センター 救急科

東洋医学の適応

適している病態

身体の不調や体力低下
自覚症状を主とする症状

冷え性、月経不順
心身症、不定愁訴、神経症

現代医薬品の副作用の軽減
など

適していない病態

西洋医学の効果が安全
かつ確実に期待できる
疾患(腫瘍など)

緊急性の高い疾患

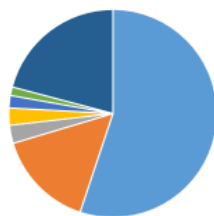
ただちに手術を要する
疾患

コロナ後遺症の症状の緩和・軽減を漢方薬にて行っています。
ご相談ください。

救急科が主に担当した疾患（2021年）

675 例

(救命センター 2610例)



- CPAOA(n=372)
- 多発性外傷(103)
- 敗血症性ショック(19)
- アナフィラキシーショック(18)
- 急性中毒(13)
- 広範囲熱傷(9)
- その他(141)





県立中央病院 29診療科のご紹介（後半）

歯科



■ 久野 直平 (ひくの なおへい)

歯科部長

専門分野 口腔外科、有資格歯科

■ 宮本 真直 (みやもと まさのり)

歯科部長

専門分野 口腔外科、有資格歯科

■ 菅 誠 (すが まこと)

歯科部長

専門分野 歯科矯正、口腔機能管理

正科部長
寛本 孝良 (かんもと たかよし)

専門分野 口腔外科、有資格歯科

診療・研究
日本歯科歯科大学卒業
日本歯科大学新潟医療歯学部卒業
日本歯科大学新潟医療歯学部卒業
日本歯科大学新潟医療歯学部卒業
日本歯科大学新潟医療歯学部卒業
日本歯科大学新潟医療歯学部卒業
日本歯科大学新潟医療歯学部卒業
日本歯科大学新潟医療歯学部卒業

診療内容

口腔外科疾患全般

外傷性疾患（歯槽骨骨折、歯牙外傷）
顎関節疾患
口腔粘膜病変
歯周炎、智歯周囲炎一抜歯
嚢胞性疾患 口腔腫瘍一切除、摘出術
睡眠時無呼吸症候群（口腔内装置）
顎欠損補綴・摂食嚥下補助装置

有病者に対する一般歯科（歯、歯周病等）
障害者歯科
周術期口腔機能管理（口腔ケア）



歯科：愛媛県立中央病院年報（2020 年診療業務報告書）

- ・ 初診患者数：2,618名(3,134名)
- ・ 再診患者数：10,577名(12,284名)

■ 手術及び処置件数 ()内は2019年実績

手術及び処置名	症例数
通常抜歯	604(971)
智歯、埋伏歯	694(1,079)
消炎手術(口腔内、外、腐骨除去)	35(39)
顎骨嚢胞、腫瘍	49(75)
口腔内腫瘍	35(52)
顎関節症	88(82)
顎関節脱臼整復術	8(6)
顎骨骨折、歯槽骨骨折	29(25)
睡眠時無呼吸症候群	13(15)
周術期口腔機能管理	1,400(1,350)



⑤「ソウシンコラム その6」 総合診療科 副院長 玉木 みずね

不定愁訴とエンパワーメント

「不定愁訴」とは、精査をしても器質的原因が見つからない様々な症状のことです。身体（内臓）は悪くありませんよ、と説明しても大概は患者さんの問題解決にならないため、医師は対応に苦勞します。ソウシンはそういう患者さんが比較的多いです。どうすればよいのか。決まった道筋はありませんが、患者さん自身の対応力を高める手助けをする、という事を意識しています。最近の言葉でいうとエンパワーメントという事でしょうか。大がかりなことではなく、お話を聴きながら解釈モデルをちょっと訂正したり、生活のアドバイスをしたりすることで、患者さんが症状に圧倒されずに普通の生活を取り戻すことができる場合があります。

⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきたいと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。



ご意見

<件名> メール登録（医療機関名） <本文> ・医療機関住所、電話番号

ご希望

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で…

医療連携懇話会の
動画配信が
ご覧いただけます！



動画配信
3つの
ポイント！



①
お好きな
時間に



②
繰り返し
再生！



③
3密
回避



お問い合わせ

愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当> 濱田・三好



TEL : 089-947-1111(代) FAX : 089-987-6271 E-mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回第118回医療連携懇話会のお知らせ

令和4年 9月14日(水) 19:00~20:00

テーマ 脊椎脊髄センター開設にあたって

演題

- ・脳神経外科における脊椎脊髄手術
脊椎脊髄センター長 岩田 真治
- ・全内視鏡下脊椎手術(Full endoscopic spine surgery)の
取り組み 一導入4年目を迎えてー
整形外科 部長 山岡 慎大朗
- ・脊椎脊髄センターとリハビリテーション
リハビリテーション部 理学療法士 藤田 典道
- ・脊椎脊髄手術における臨床工学技士の関わり方
臨床工学部 臨床工学技士 稲荷 慎太郎

お申込・詳細はコチラから [Click!](#)

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ



媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス 媛さくらネット

<現在閲覧できる項目>

閲覧
無料

- ・処方・注射・検体検査・病名
- ・画像(放射線、エコー、生理検査)
- ・循環器動画・放射線画像診断レポート

閲覧項目
随時追加予定

(2021年11月1日以降の情報) (2022年3月1日以降の情報)

<リンク先>
愛媛県立中央病院ホームページ

詳しくはコチラから [Click!](#)



地域連携室便り

次回10月号(No.29)は
10月中旬頃刊行の予定です。
お楽しみに！